



# R5 牧山小だより

思いやりの心を持ち、自ら学び自ら考え、心身ともに  
元気に仲良く活動できる牧山っ子を目指して！！



北九州市立牧山小学校  
文責 校長 近藤幸子

## 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

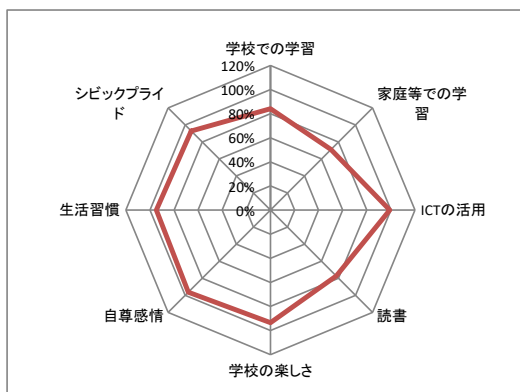
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	全体的に平均正答率は、全国正答率を下回っている。特に「話すこと・聞くこと」の領域は、全国平均正答率と比べて、平均正答率が低い。また、記述式の問いに対して、無回答率が高くなっている。一方で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域や全体的な「知識・技能」の平均正答率は、全国平均正答率と同程度である。
算数	全体的に平均正答率は、全国正答率を下回っている。特に「数と計算」の領域は、全国平均正答率と比べて、平均正答率が低い。また、記述式の問いに対して、無回答率が高くなっている。一方で、「データの活用」の領域の平均正答率は、全国平均正答率と同程度である。

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



**質問紙調査の結果分析**

- ・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」との問いに対して、約97%の児童が肯定的に回答している。
- ・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。
- ・「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」との問いに対して、肯定的な回答をした児童の割合が低い。
- ・児童が計画的に家庭学習に取り組むことができるように、家庭との連携を深め、児童の学習の様子を保護者と共有していく。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

児童が基礎的基本的な知識及び技能をしっかりと身に付けることができるように、ドリル学習等の反復練習に計画的に取り組む。また、自主的自発的に学習したことを身の回りの事象と関連させながら、学習に取り組むことができる授業づくりに努める。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

学校だよりや学年だより、懇談会等を通して、本校の取組や学習の課題を保護者に周知し、啓発を行う。また、家庭での学習習慣について、保護者と連携しながら、継続的に児童に指導していく。